## 町民の生命と財産を守る

### 氷川町消防団出初式

1月20日、桜ケ丘グラウンドにおいて新年恒例の消防団出初式が行われ、15分団・515人が参加しました。

式典では、宮本団長による訓示のほか、長年にわたり活躍された団員への表彰などがあり、続いて通常点検が行われました。

点検では、各分団ともきびきびとした動きで規律や礼式を披露。日ごろの練習の成果を十分に発揮していました。

また、吉野保育園と常葉保育所の幼年消防団が大人に負けない点検を披露し、「火遊びはしません。」などと元気に防火を誓い、会場からは大きな拍手が贈られました。

▲勇壮な分列行進

▲「おー！」と駆け出す吉野保育園園児

▲優勝した第8分団

**通常点検成績**

| | |
|---|---|
| 優　勝 | 第8分団 |
| 2　位 | 第1分団 |
| 3　位 | 本部分団 |
| 躍進賞 | 第4分団 |

## 体験談に感動

### 氷川町文化講演会

1月20日、氷川町公民館において氷川町文化講演会（氷川町文化協会（石村和夫会長）主催・氷川町共催）が行われ、町内外より250人を超える参加がありました。

今年は、書家の金澤泰子さんを講師に迎え、「天使がこの世に降り立てば」と題し、ダウン症者の書家で娘の翔子さんと歩んできた自らの体験談や、翔子さんの生い立ちなどの講演がありました。

講演後、参加者からは大きな拍手が贈られ、「涙、涙でした。」、「前向きに生きる力をいただきました。」などの感想が聞かれました。

▲講師の金澤泰子さん

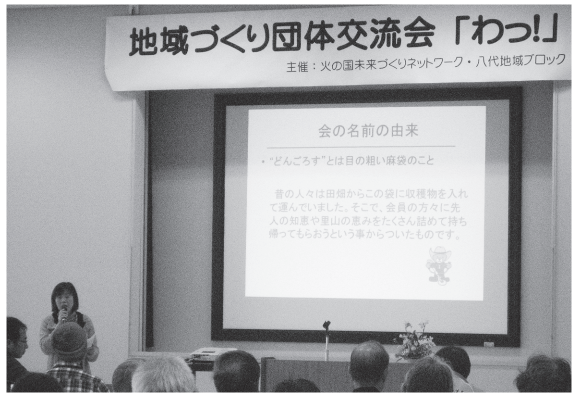
## 団体同士の交流を

### 地域づくり団体交流会「わっ！」

1月20日、やつしろハーモニーホールにおいて地域づくり団体交流会「わっ！」（火の国未来づくりネットワーク八代地域ブロック主催）が行われ、60人を超える参加がありました。

これは、地域で活動している団体、地域住民、行政が相互理解し、協働、参画するきっかけづくりを目的として、八代地域ブロックが県内で初めて行いました。

氷川町からは、「里山クラブどんごろす」（上原健一会長）事務局の坂田祐子さん（新村）が、日ごろの活動などスライドを使って紹介されました。



▲紹介者の坂田祐子さん（左）

## 八代トマトは日本一

### 第1回 やつしろTOMATOフェスタ

1月27日、冬トマト生産量日本一のPRを目的に道の駅「竜北物産館」などを会場として、第1回やつしろTOMATOフェスタが行われ、多くの買い物客でにぎわいました。

トマトをふんだんに使ったトマトシチューやトマト麻婆丼などの試食コーナーでは、用意していた分があっという間になくなるほど人気で、食べた人からは、「あっさりしていて食べやすくおいしい。」、「ハヤシライスのルーに味が似ている。」などの声が聞かれました。

このほか、月乃輪保育園園児による太鼓の演奏や餅つきなどもあり、会場を盛り上げました。

▲試食コーナーには長蛇の列が

## 祝 100歳

### 氷川町長寿表彰

1月28日、前日に100歳を迎えられた加納冨美さん（町）に長寿のお祝いとして、藤本町長よりお祝い状と花束が手渡され、「これからも長生きしてください。」との言葉に笑顔で応えられました。

冨美さんは、大正2年1月27日生まれ。現在は、老人ホーム「さくら」で元気に穏やかな生活を送られています。

ご家族に冨美さんのお話を伺うと、「とっても働き者で何にでも挑戦する母です。アルコウ会も無欠席で頑張りました。手まり作りも得意で、みんなに喜ばれています。」と話されました。

▲加納冨美さん（中央）

## 農業の振興に寄与

### 第53回 熊本県農業コンクール大会表彰式

1月30日、熊本県庁において第53回熊本県農業コンクール大会表彰式が行われ、「地域貢献賞」を受賞された一森勝行さん（若洲）と「食と農部門」で優良賞を受賞された氷川町担い手女性グループより岡村由美子会長（若洲）と太田ノブ子さん（新田）が出席されました。

「地域貢献賞」は、地域の農業振興などに大きく貢献された方に贈られるもので、い草生産地域に露地野菜を先駆的に導入し、産地化に貢献したことと、永年にわたり農業委員や物産館出荷協議会のリーダーとして地域をけん引したことが評価され、昨年の松岡静子さん（早尾）に続いての受賞となりました。

一森さんは、「個人ではなく、みんなと一緒にやるということを考えていました。特別なことはしていないので、こそばゆい気持ちです。」と受賞の喜びを話されました。

また、「食と農部門」は、平成22年度から新しく設けられ、地産地消活動、都市と農村の交流活動、食育活動などを通じて地域の活性化に寄与している農業関係団体などに贈られるもので、地元特産物を使った加工品の開発・販売、地域のイベントでの消費者との交流や小学校での郷土料理体験指導などを通した食育・食文化継承活動が評価されての受賞となりました。

お二人に話を聞くと、「自分でも勉強して活動を続けてきました。もち米を麹にする作業には苦労しましたが、よく出来た時は嬉しかったです。」「グループ内の交流も楽しみの一つです。」と笑顔で話されました。

▲太田ノブ子さん（中央）、岡村由美子さん（右）

▲一森勝行さん